

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670900184
法人名	有限会社 めぐみ福祉会
事業所名	グループホーム 大口めぐみの里
訪問調査日	平成20年12月10日
評価確定日	平成21年1月26日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4670900184		
法人名	有限会社 めぐみ福祉会		
事業所名	グループホーム 大口めぐみの里		
所在地	鹿児島県伊佐市大口曾木480番地 (電話) 0995-25-2323		
評価機関名	特定非常利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年12月10日	評価確定日	平成21年1月26日

【情報提供票より】(20年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	8人, 非常勤 14人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り平屋葺		
	1階建ての	1階	～ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000円		

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名	
要介護1		名	要介護2		6名	
要介護3	6名		要介護4		4名	
要介護5	2名		要支援2		名	
年齢	平均	87.7歳	最低	76歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松元整形外科病院 古川医院 坂口歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

伊佐市の郊外にある当ホームは緑豊かな田園と住宅地に囲まれ、敷地内にデイサービスも有しており、常に地元の人々と関わりを持つことのできる環境である。開設して8年、運営者の認知症だった父親へのやさしい思いが理念(まごころ支援、ゆっくり、やさしく、おだやかに)に、反映されている。職員は運営者の思いを受け止めて、認知症介護のプロとして自信を持ってケアサービスに取り組んでいる。夜間帯は各ユニット毎に夜勤者1名以外に当直者を配置し、職員、利用者、家族などが安心・安全確保できる為の体制づくりである。また地域の方々との交流(他ホームの人たちとの食事会、近くの小学生・保育園児とのボランティア訪問)があり、地域に支えられ、ホーム全体に温かさが漂い、利用者の表情も穏やかである。地域密着型サービスを実践しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった理念について、運営方針をもとに今の現状にあった全職員の思いを集約した理念を作り上げている。他の指摘事項も改善に取り組み、サービス向上に活かしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的をミーティングや勉強会で話し合い、全員で評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	行政職員、住民代表など多くの参加を得て定期的に開催されている。感染症対策に加湿器の購入や利用者を園外に連れ出す手段の解決策など問題解決につながる意見交換の場になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議や家族会など、面会時にも思いや意見が出されている。特に家族会では家族同士で話し合える時間を作り要望、苦情を出してもらえよう配慮している。職員は要望などの対応に努め運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	公民会に加入し、地区の行事(水路、草払いの清掃)、学校行事に参加している。2年前、水害を経験し地区住民との絆が深まっている。当グループホームも地区住民として地元の避難訓練に参加したり、園の夏祭りには地区住民の参加をもらっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が寄り添い、ふれあいながらその人らしく生活し、地域に密着したホーム運営を目指して開設時に職員の思いを集約してできた理念を作り上げている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日理念の唱和を行い、日常生活の中で生きた方針として語り、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民会に加入し、地区の行事(水路、草払いの清掃など)、学校行事に参加している。水害を地区住民とのりこえ、絆が深まっている。地区住民と避難訓練に参加したり、夏祭りを楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を勉強会で話し合い、全員で評価に取り組んでいる。外部評価の結果はミーティングで報告し、改善計画をつくり、ケアに活かされている。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区住民代表、行政職員など多くの参加を得て定期的に関催されている。感染症対策の話し合いにおいて、加湿器の購入など問題解決につながる意見交換ができています。今後は参加メンバーに消防署、警察署の参加をもらい、さらにサービス向上につながるよう計画されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村職員担当者から行政の現状報告をもらったり、定期的ホーム便りの配布、運営サービスについて相談したりして地域密着型サービスの向上に向けて意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回のホーム便りや電話などで現在の様子を報告している。面会時にも詳しく話している。金銭管理は出納帳の記録により管理し、定期的に説明、サインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会、運営推進会議で意見や要望が出されている。特に家族会においては家族同士で話し合う時間を設けて意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけており、出された意見、要望はミーティングで話し合い、対応など運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットごとに職員を固定化し、職員、利用者、家族などなじみの関係を重視したケアを心がけている。職員の異動の際は新職員には研修を行い、利用者にも説明し、不安な状態にならないよう取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は段階に応じた研修に参加し、報告され全職員が共有できている。また、勉強会や資格取得にも積極的に支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会に参加するほか、他事業所との相互訪問を積極的に行い、交流や情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時は自宅や病院に訪問し、本人・家族の思いの把握に努め、見学や来訪時には職員、利用者と過ごしてもらい、不安なく入居できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の今までの生活歴を考慮し、その思いを受け止め、利用者に寄り添い、傾聴に心がけている。支援する側される側という意識はもたず、お互い和やかな生活ができるよう声かけしながら支えあう関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者から情報を得たり、日々の関わりの中での言葉や表情などで現状の把握に努めている。視覚障害の方にも常に声かけしながら利用者本位のケアを検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに主治医、職員の意見を活かし、利用者が自分らしく暮らせるよう、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別記録をもとに評価して利用者が安定していても1か月に1回は現状に合った介護計画であるか確認している。定期的(3か月、6か月)な、見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望や状況に応じて通院、送迎、退院など必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望する医療機関との連携を取っており、受診が継続できるよう、また事業所の協力医もいつでも適切に医療が受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について意思確認書を作成し、本人、家族の意向を聞いている。また、かかりつけ医からの指導を含めて職員全員がその方針を共有している。		グループホーム「めぐみの里」の終末期、看取りの指針(家族の協力、費用面など)を、文書化した上での説明、同意書をとられること(リスク軽減につながる対策の為に)が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため、尊厳について守秘義務などミーティングで話し合いをもっている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう声かけや対応に留意している。職員採用時の守秘義務の誓約書もある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが食事、起床、就寝時間、入浴やレクリエーションなど一人ひとりの体調や思いに留意しながら利用者の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材をとりいれた献立を工夫し、出来ることをしてもらいながら個々の嗜好を考慮している。利用者の一番の楽しみである食事に気配り、心使いが行き届いている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日が決められているが、無理強いすることなく利用者の希望、タイミングに合わせた入浴を実施、見守り、声かけの支援をしている。利用者の体調、状態に合わせて、シャワー浴など対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみや野菜の下ごしらえ、雑巾縫い、水彩画など利用者の趣味や特技など個々の力を発揮できるようにしている。外食やデイサービスに行ったり、場所をかえて中庭でのお茶を楽しんだり気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には園庭の散歩、行事での外出、デイケアの方々との交流など出かける機会を作っている。デイサービスのリフト付きの車でのドライブなど、閉じこもらないように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。室内や玄関には鍵をかけず、見守りに心がけ、自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	水害の経験から地域住民とともに大口全体の災害訓練に参加している。消防署の協力を得て避難訓練や消火器の使用方法など定期的実施している。今後も運営推進会議での議題にあげて災害対策の充実を図っていく方針である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材をとりいれ、栄養バランスを考えた献立になっている。食事量、水分量のチェックを行い、お粥や刻み食など身体状況に合わせて提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者の書いた水彩画や季節感を出した装飾品、洗面所には利用者の生け花と、花に囲まれた共用空間は清潔で換気の良い明るい環境で、利用者はゆったりと過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、家族の写真、お位牌などなじみの物が持ち込まれており、ベッドの位置や高さの調整など本人が心地よく過ごせるよう工夫している。清潔感あふれる居室になっている。		